

質問 4-1 大戸川ダム建設に伴う環境への影響については、これまでどのようなことを実施してきたのか、教えてほしい。

(回答)

- 大戸川流域には、花崗岩の不透水層に形成された貧栄養湿地や、丘陵地の山間に広がる里山的環境などが存在しており、これらの環境には多様な動植物が生息・生育しています。
- 当初の大戸川ダムの事業規模(貯水池面積:150ha)は、環境影響評価実施要綱(昭和 59 年閣議決定)に基づく環境影響評価の対象規模(貯水池面積:200ha 以上)には達していませんでしたが、平成元~4 年にはこれに準じた環境影響の検討を行い、平成 4 年度にその結果を「大戸川ダム建設事業の環境への影響について」として公表しました。その後も、環境保全対策実施のための環境調査を継続して実施しており、平成 14~16 年度には、「滋賀県で大切にすべき野生生物」(平成 12 年 8 月発行)等に記載された希少な動植物についての追加調査や、当該地域の生態系の理解を深めるための追加調査を行い、その結果をもとに、動物、植物、生態系の現況について整理しました。
- これらの取り組みのうち、動植物及び生態系に関する調査・検討については、「大戸川ダムの付替県道・工事用道路に係わる生態系保全検討会」(平成 13 年設立)や、この検討会を発展させた「大戸川ダム事業に係る環境保全検討会」(平成 16 年設立)を通じて、以下の学識経験者から指導・助言を受けつつ実施してきました。

(参考)大戸川ダム事業に係る環境保全検討会 委員名簿

氏 名	所 属
小林 圭介	滋賀県立大学 名誉教授 滋賀県立短期大学 名誉教授
白附 憲之	(元)武庫川女子大学 教授
高柳 敦	京都大学大学院農学研究科 講師
前畑 政善	滋賀県立琵琶湖博物館 統括学芸員
松井 正文	京都大学大学院 教授
村長 昭義	東近江市立山上小学校 教諭
保田 淑郎	宝塚造形芸術大学 教授

※所属は、平成 17 年 10 月時点

- 上記にしますように動物、植物、生態系に関する専門家からの指導・助言を受け、長年にわたり多額の費用(約19億円)(今後の対応も含む。)をかけて環境調査・評価および環境保全対策の実施に取り組んできています。

(関連資料)

- 平成19年10月6日 第64回淀川水系流域委員会
審議資料1-1-1 審議資料1-1-2 審議資料1-1-3
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index.html#64th>
- 上記資料は、大戸川ダム工事事務所ホームページでもご覧頂けます。
<http://www.kkr.mlit.go.jp/daido/think/tyosakento.html>
資料名：【H19.10.6】大戸川ダム建設事業における環境対策等
<http://www.kkr.mlit.go.jp/daido/think/tyosakento2.html>
資料名：【H17.10】大戸川ダム事業における環境調査結果
【H17.10】大戸川ダム事業における水環境調査結果
【H17.10】道路工事に係る自然環境保全措置の実施について

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。